

従来の就職支援室を吸収・発展させた
キャリアセンターが今年度より本格始動！

学生の自主性と自覚を促す キャリアプログラムを開発中。

就職戦線を
読み解く

其の弐

キャリアセンター長
人間情報システム工学 知能制御システム工学 教授

佐々木 実

研究分野はメカトロニクス、ロボット工学、インテリジェント制御、生体情報工学、自動制御と幅広い。「新技術融合シリーズ第6巻」[メカトロ油圧技術]など、共著を含め著書多数。

「就職支援の本丸！」
「キャリアセンター」の
センター長に伺いました!!

実社会で役立つ人間を、いかに輩出していくか。
本学の使命として「就職のミスマッチ」に立ち向かう。

いま、なぜキャリアセンター、キャリア教育なのか。それは近年問題となっている若者の離職率の高さ、ニート、フリーターの増加に、国全体が危機感を覚えているからに他なりません。「個人の資質の問題だ」「家庭環境に因る」「親の育て方が悪い」等々、原因について議論すれば、おそらく意見は様々に分かれることでしょう。ただ、それらを突き詰めていくと、結局は「学校教育」へと辿り着きます。まず思いつくのが、受験合格にのみ目標を置いた偏差値重視の教育体制。進路指導で学生が陥りがちなのは、「入りたい大学」の探求ではなく、「入れる大学」の選択です。とりあえず大学だけは出ておこう；そんな社会の風潮もあり大学進学率は高くなっていますが、その分、目的を失ったまま大学生活をやり過ごし、「社会人とは何か」「就業とは何か」という自覚を持たないまま卒業してしまう学生が多くなっているわけです。

そこで文科省はキャリア教育に対する大学設置基準を改正し、全大学に対し教育課程の中に職業的自立を図るための指導を盛り込むことと、就職者数の情報公開を、2011年度より実施するよう義務づけました。

これを受け、本学では既に学生の間で浸透している「就職支援室」を発展させ、「キャリアセンター」を新設。キャリアセンターのテーマには、「キャリア形成」と「自主活動支援」という二つのテーマが盛り込まれているのです。

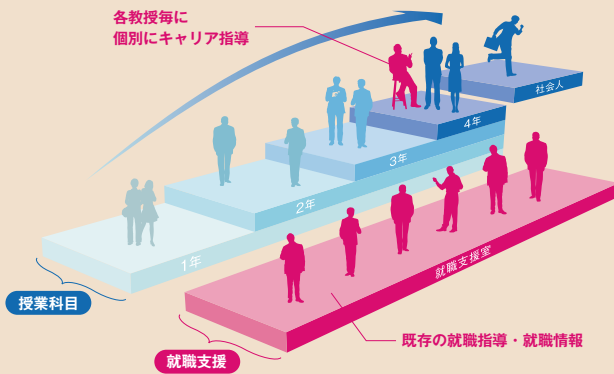
今までどおり就職活動に必要な情報やノウハウを提供していくのはもちろん、社会に出て働くことの意味や、学部学科で得た知識や経験が社会にどう役立つかを、学生がイメージしやすいようアシストしていきます。

例えば1年生を対象とする全学共通科目の中に、数多くの「キャリア形成科目」を開講。さらに各学部教員と連携し、専門科目と実際の職業との関連性を分かり易く説明するため、企業やOBを招いた講義スタイルも検討しています。また、修士課程1年をメインに実施されているインターンシップ(就業体験)を、学生が希望するならば各学部1・2年次からでも実施できるよう、受入れ先企業の確保をはじめ、単位・評価の設定などの仕組みづくりにも取り組んでいきます。そして学生には1年間の自分を評価しチェックできるようポートフォリオ(自分自身の成長を自覚できる記録)を作成してもらい、年度終わりに各学部の指導教官がコメントを返す、あるいは面談するという体制も検討しています。いずれにしても、学生の実情とニーズを把握しながら、今年1年かけてプログラムを完成させていく予定です。これが実現できれば、現状の課題とされる「就職のミスマッチ」を少しでも排除し、これまでより一層、世の中に必要とされる優秀な人材を数多く輩出させていくことができるのではないかと考えています。

大学で得ることができる知識や経験が、社会でどう役立つのかイメージしやすいようにアシストします。

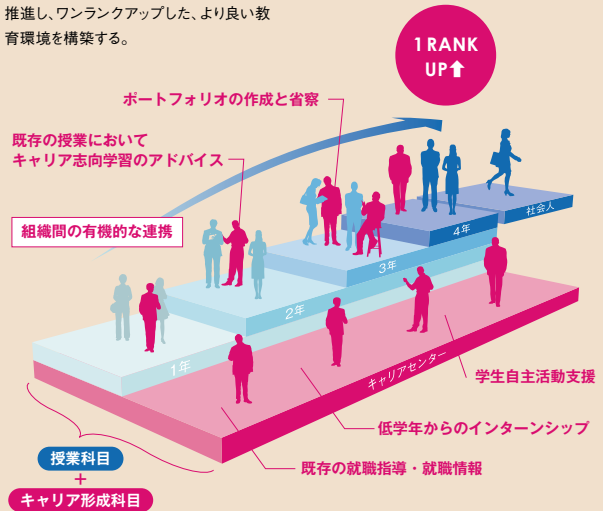
昨年度までの体制

これまでは、授業科目による教育と就職支援室とは別々で、専門科目では各教授が個別にキャリア形成を意識した教育をしていた。



今年度からの体制

新体制では、キャリアセンターがキャリア教育のノウハウの集約拠点として、全学的立場からキャリア形成支援と就職支援を推進し、ワンランクアップした、より良い教育環境を構築する。



クラブ活動やボランティアもキャリア形成の重要ファクター。 人と協力し何かを成し遂げる経験が就業意識に通じる。

またクラブの支援にとどまらず、大学組織が行う事業活動のサポートメンバーや大学祭、企業展などのイベント実行委員の募集を手伝い、学生が自主的・自立的に行動できる環境・機会を積極的に創出。今年から実際に活動を開始します。6月には、学生主体の岐大発熟議推進委員会の主催・企画・運営、キャリアセンター共催で「熟議」も予定しており、現在はこれの実行委員の10数人の学生で、開催に向けての企画会議を行っています。さらに「熟議」が終わった後も、彼らには当センターが行う活動のコアメンバーとして活躍してもらえないのではないかと期待している。

大学での学びは、何も学業に限られるものではありません。たくさんの人との出会いや関わりを求め、新しい気づきや価値観を育てていくのも、この時期ならではの特権。ですから、学内外を問わず学生が自主的に行う活動に対し、当サポートセンターは全面的にバックアップしたいと考えています。さて、その中で第一に挙げがてくるのがクラブ活動です。これは企業の採用担当者が学生を評価する際にも、特に注目してくるポイントになっています。確かにクラブ活動に専念している学生はコミュニケーションや社会性に長け、リーダーシップ、マネジメント能力などの素養を自然に身に付けている場合が多く、「キャリア形成」の点からも重要なファクターになると考えられます。

最近の学生は、しっかりと就業意識を持った人と、そうではない人の二極化が進んでいると言われています。でも、これを「最近の〜」で片付けるのは間違いであって、前段で述べたように、高校の進路指導のあり方は元より、キャリア形成における大学側の説明不足にも問題があったかと思うのです。例えば工学部の学生には「エンジニアリング」というものは、答えがあるかどうか分からないことを追求する仕事だよ」と、教員はちゃんと説明しなければいけない。そこを分らせてあげないと、自分の研究分野に興味を持てず、学ぶ意味すら見失う学生たちが続出したりまするわけです。

学生は就職に関する情報が溢れています。でもその情報に振り回されず、学生達には自分の目指す方向を純粋に探って欲しい。そして新たに設置される「キャリアセンター」を大いに活用していただければと思います。